

## 【部会・分科会活動報告】 2019年7,8月度

|   |                                    |   |
|---|------------------------------------|---|
| 食<br>品<br>安<br>全<br>研<br>究<br>会           | 食品微生物研究部会                          | <p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会<br/>ソフトドリンク技術資料の8月発刊分への掲載準備。<br/>分析方法のプロトコルやバリデーションの詳細を協議・検討中。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会<br/>・島津製 MALDI 用解析ソフト Saramis の微生物同定データベースの in house ライブラリー拡充を目的として、NITE/NBRC が有する SuperSpectra 作製ノウハウに関する技術講習会の開催を企画している。本件について、8月1日に NITE 本所にて打ち合わせを実施した。分科会メンバーへの案内を送付し、参加意向を確認中である（8月末日〆切）。</p> <p>・NITE との連携を深める目的で、ILSI 部会内での勉強会講師として名城大 田村先生（NITE 客員研究員）をご推薦した。</p> <p>(3) チルド勉強会<br/>耐熱性試験法検証参加企業のうち、TDT チューブ法を採用している6社について詳細条件を調査した。調査結果を元に耐熱性試験結果を考察する。10月上旬に勉強会および打ち合わせ実施予定。</p> <p>(4) ICMSF 分科会<br/>参加メンバーを募集し、ICMSF ビデオの原稿翻訳を開始。</p> <p>2. 2019年度 第3回部会全体会議を9/24に九州産業大で開催予定。当部会 OB の中山先生より「食品分野における MALDI-TOF MS の活用」について講演していただく予定である</p> |
|   | 食品リスク研究部会                          | 2019年活動計画「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」として高齢者における食品-医薬品相互作用に関する文献を精読、情報を抽出した。9月4日開催の部会（2019年度第3回目）にて、今後の進め方について協議する。  |
|   | 香料研究部会                             | 特になし  |
| A<br>A<br>T<br>P<br>ロ<br>ジ<br>エ<br>ク<br>ト | 概要                                 | 食品領域における動物実験代替の推進。<br>参加企業数15社（2019年8月現在）   |
|   | 2020 国際ワークショップ<br>（ILSI Europe 協働） | <p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として2020/10/22~23に横浜で限定公開（AAT 関連メンバー等）にて開催する。</p> <p>【進捗】プログラム案作成し、ILSI Europe に提案した。</p>   |
|   | 腸管吸収性 WG                           | <p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬大山崎研の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】食品関連化合物情報を提供して予測値と文献値の比較を行った。さらに文献値の学習等によりモデルの改善が図られた。</p>   |
|   | データベース WG                          | <p>【概要】毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】反復投与毒性を予測する外部プロジェクトとの連携について検討を開始した。</p>   |

|         |  |   |
|---------|--|---|
|         | 定期会議   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/4 に第3 回定期会議を開催した。</li> <li>・次回定期会議予定：12/6</li> </ul>  |
|         | バイオテクノロジー研究会                                       | <p>1. 2019 年度 第4 回目会議を8 月8 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第45 号を7 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第46 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p>(2) GM 微生物食品について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ報告書執筆状況について共有化。イルシー誌 No.139 号に掲載。</li> </ul> <p>(3) GM 作物について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISBR2019 (タラゴナ、スペイン) 及び本会議後に開催されたワークショップ派遣者報告書について：報告書を ERA 特別号としてを ERA 第45 号と同時に発行。</li> <li>・昨年11 月7 日開催の「遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する公開ワークショップ-隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関する考察」がイルシー誌 No.139 号に掲載された。</li> <li>・筑波大学、小口太一、菊池彰、渡邊和男先生による「わが国の学術目的での遺伝子組換え植物の第一種使用規定の承認審査の変遷：申請者の視点による評価」がイルシー誌 No.139 号に掲載された。</li> </ul> <p>(4) その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS について：7 月30 日開催 第2 回企画委員会について報告。</li> </ul> <p>2. ゲノム編集技術に関する内部勉強会を ILSI Japan 会議室にて開催：</p> <p>日時：8 月8 日木曜日 15:30～17:30</p> <p>演者：農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門<br/>遺伝子利用基盤研究領域 先進作物ゲノム改変ユニット<br/>主任研究員 遠藤真咲先生</p> <p>参加人数：19 人</p> <p>内容：① SDN-2, 3 の分子機構 ② ガイド RNA の設計法 ③ ゲノム編集作物の開発状況 の3 演題を通じ、ゲノム編集の技術の基礎から日本・世界の開発状況について講演いただいた。</p> |
| 栄養健康研究会 | 栄養研究部会   | <p>第8 回「栄養とエイジング」国際会議 (2019 年10 月1-2 日開催) の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場 (国際連合大学、渋谷区) の下見：2019 年7 月18 日。</li> <li>・会場運営について事務局と情報を共有：2019 年8 月2 日。</li> </ul>   |
|         | GR プロジェクト  | 第4 回 GR 法多施設試験検討会9 月6 日を予定  |
|         | 茶類研究部会・茶情報分科会                                      | 進捗報告特になし  |
|         | 食品機能性研究会   |   |
| 健康な     | ワーキンググループ1 (WG1)<br>科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築 | <p>イルシー誌139 号に投稿した活動報告書の校正を実施。</p> <p>メール上でやり取りして、「栄養とエイジング」国際会議の要旨の英日とスライドを用意した。</p>   |

|                       |  |   |
|-----------------------|--|---|
| 食<br>事<br>研<br>究<br>会 | ワーキンググループ2 (WG2)<br>外食・中食・給食の実態把握  | ◇7月11日 10-12時 WG2 拡大事務局会議：惣菜協会を通じて会員企業へアンケートを実施した。確認を行い、今後の進め方とデータ内容の表現方法を検討した。<br>◇8月22日 15-17時 WGの全体ミーティング<br>惣菜協会を通して行ったアンケート結果に関して、グラフなど整理して共有し、どのグラフを国際会議で紹介するかなど、調整した。最終的な報告先として、「イルシー」誌への掲載を目指すということで合意された。  |
|                       | ワーキンググループ3 (WG3)<br>健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証  | ◇7月12日 14-15時 30分 お茶の水女子大学 赤松先生「適切な食選択を促す要因」について勉強会。同日 15時 30分-17時 30分 ミーティング。<br>◇7月19日 10-11時 専修大学学生生活課訪問。<br>◇7月29日 16-17時 宮城県登米市役所訪問。<br>◇8月20日 15-17時 全体ミーティング：<br>これまでの訪問先の議事録の共有。「栄養とエイジング」国際会議におけるWG3の要旨とスライドの変更案を9月6日までに再度差替えを出すことで合意。活動の目安とまとめの報告先に関して話し合い、国際会議の内容も踏まえて、「イルシー」誌への掲載を目指すということで合意された。   |
|                       | 研究会全体  | ・健康な食事研究会進捗報告会投稿：「イルシー」誌139号にフラッシュ・レポートとして投稿。<br>・「栄養とエイジング」国際会議フラッシュ・レポート内容の15名分担。当日スタッフとしての分担も快諾。   |
| C<br>H<br>P           | Project PAN<br>(Physical Activity and Nutrition)<br>“身体活動と栄養”プロジェクト                        | ◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~<br>7月8日 横浜社会福祉協議会主催 体操と栄養まるっと健康教室～TAKE10!®で自分の生活を見直してみませんか?～：(荏田地域ケアプラザ 多目的ホール, 横浜市)<br>7月 吉賀町町民向け普及ビデオ「よしかテイクテン」の完成。<br>8月19日 鹿児島県たるみず元気プロジェクト調査参加(垂水市, 鹿児島県)。   |
|                       | Project DIET<br>(Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®)<br>“途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト | [カンボジア]<br>7月16日 工場での栄養介入(栄養強化米の導入+栄養啓発活動)に関するワークショップ実施。介入試験結果の報告および今後の展開について議論。今年度、栄養強化米の導入についてスケールを拡大して実施すること、及び、栄養啓発活動について富士通のIT技術を活用した取り組みを検討することを確認。参加者：カンボジア政府関係者含め約50人(Himawari Hotel, プノンペン)。<br>[インドネシア]<br>8月1, 2日 健康な工場食の展開に関しワークショップを実施、各々の工場での健康な工場食導入の可能性について議論。1日5社, 2日6社が参加(1日:GIIC 工業団地(Greenland International Industrial Center), 2日:EJIP 工業団地(East Jakarta Industrial Park), 西ジャワ州ブカシ県)。<br>8月1日 14:00~16:00 ボゴール農科大学と今後の実施内容について検討(サンクレスト会議室, デルタマスシティ)。17:00~18:00 現地工場の担当部署と今後の実施内容について検討(現地工場会議室, GIIC 工場団地)。<br>8月2日 15:00~16:30 現地給食業者、食品企業、マーケティング |

|         |  |
|---------|--|
|         | 会社との面談（インドフード会議室，ジャカルタ）。<br>8月5日 第13回アジア栄養学会議（ACN2019）のランチシンポジウムにてカンボジア、インドネシアにおける「職場の栄養」の取り組みについて報告。参加者約60人（バリ島）。   |
| CHP 全体  | The Power of Nutrition（栄養への新たな投資を促進する英国拠点の慈善団体）/ Chatham House（英国のシンクタンク）が実施する「栄養問題とビジネス」についてのスタディー（2020年栄養サミットで発表）に関し、引き続き参画できる日本企業を検討。   |
| 国際協力委員会 | 委員会開催：2019年7月2日（木）15:00～17:00<br>【議題】<br>・ILSI SEAR Food Packaging SymposiumのSpeakerについては、当委員会からの依頼に基づき、厚生労働省主管課より発表者を検討いただいているとのこと。→その後、厚労省医薬・生活衛生局食品基準審査課より担当官を派遣いただけるとの連絡があった。食品用器具・容器包装のPL化の内容についてご登壇いただく。<br>・11th BeSeTo会議において、ILSI Japanから以下のトピックスで発表を行うことに決定した。<br>Food loss, Allergen regulation, Functional claims (mild case data), Update on amendment of Food Sanitation Act, Sugar regulation<br>・ILSI本部の、ILSIに対するネガティブな投稿論文及び、それに関するメディアへの対応を、委員会メンバーで共有した。 |
| 情報委員会   | 8月26日 16:00-17:00「栄養学レビュー」編集会議：<br>・27巻4号通巻105号、8/05 発刊<br>・8月9日に会員全員宛の「発刊お知らせメール」送信<br>・28巻1号通巻106号→4件採択→加筆終了2件、監修中2件→2019年11月10日発刊予定<br>・28巻2号通巻107号採択論文3報、OUP承認取得→翻訳者模索中→2020年02月10日発刊予定  |
| 編集部会    | ・「イルシー」誌139～141号原稿依頼検討、編集。   |

## 【講演会・シンポジウムご案内】

| 講演会名 | 案内 | 担当研究部会 |
|------|----|--------|
|      |    |        |
|      |    |        |

## 【事務局からのお知らせ】

|     |  |
|-----|--|
| 理事会 | 第3回理事会を2019年7月26日（金）に開催した。<br>1. 決議事項<br>事務局より来年組織される ILSI Assembly のメンバーについて、その役割、参加する会議、任期を説明し、ILSI Japan の理事会のメンバーの内インダストリーから1名、アカデミアから1名選任すると説明した。議論の末、インダストリーは、阿部（文）理事、アカデミアは宮澤会長に満場一致で決定。<br>2. 報告事項<br>ア) 新寄付講座 |
|-----|--|

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>「新寄付講座」の内容の方向性について理事長より提案があり議論した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ILSIとして栄養と健康の分野は重要であり、国立健康・栄養研究所及び東北大の長寿センターと協働した取り組みで検討することが提案され、引き続きその方向で進めることで議論された。</li> </ul> <p>イ) 研究部会活動<br/>各部会の7～8月の活動内容について、事務局長より説明した。</p> <p>ウ) 2019年収支見込と収支改善の取組み<br/>今期の収支見込の説明を俵積田次長が説明し、それに続き事務局長が収支改善の提案を2,3挙げ、議論をした。</p> <p>エ) 役員改選<br/>来年2月に現役員の任期が満期になり、研究部会活発化を目指し、役員の増員を提案。候補の推薦など今後進め方を検討する旨説明した。</p> |
| 事務局 | 特になし。   |